

平成 26 年度放射線安全取扱部会年次大会 (第 55 回放射線管理研修会)のお知らせ (5)

平成 26 年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員会

平成 26 年度放射線安全取扱部会年次大会は北海道支部が担当し準備を進めてきました。以下に紹介する大会プログラムを用意しております。多くの参加者の皆様に興味を持っていただける内容になるよう、また、北海道支部らしさも取り入れて企画したものです。本大会では3つの特別講演と3つのシンポジウムを実施します。これまでの年次大会同様に特別講演Ⅰは放射線障害防止法の最新の動向について原子力規制室に講演をお願いしました。特別講演Ⅱは豊かな野生動物や自然環境で有名なオホーツク海に関して、その生態系維持に重要な役割を果たしている流水の成り立ちの仕組みや近年の変動を中心に長年その研究をされている先生に講演をお願いしました。特別講演Ⅲは放射線の医学利用として有用性が注目されている粒子線治療の話題を、北海道初の粒子線治療施設である北海道大学病院陽子線治療センターの立ち上げに携わった北海道大学工学研究院の先生にお願いしました。また、3つのシンポジウムにつきましても、①放射線あるいは放射性同位元素の新しい利用に関して、②福島第一原子力発電所事故以降ますます重要性が増している正しい放射線知識の学校教育での推進、また、③放射線施設のみならず廃炉で今後の重要な課題である放射性廃棄物処理について、それぞれに焦点を当てて企画しました。多様な角度から放射線利用について取り上げましたので、様々な方々に興味を持っていただけるものと思っています。

東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故の処理が長期化する中、放射線利用に対する正しい教育と管理がこれほど望まれる時期はありません。また、放射線利用も益々重要になってきている今日です。一方、医療・獣医療での放射線利用は広がってきているものの、ライフサイエンス研究では代替方法が多数あり、大学関連では使用頻度の低下や予算の面から縮小や閉鎖する施設も多くあります。こうした中で新たな放射線・放射性同位元素の利用方法にも目を向け、安全取扱の管理をもう一度、見直して放射線利用を広げて行く必要があるだろうと思います。こうした考えに立って、「放射線安全教育と放射線利用のさらなる向上を目指して!!」とシンプルなテーマを設定しました。昨年の鹿児島市での九州支部が担当された年次大会ではポスター発表の内容をあらかじめ紹介する時間を設けたり、年次大会最後の所でまとめの討論を行うなど様々な改革が加えられ、参加者の皆様から大変好評でした。本年もこれらの運営方法を踏襲して行っていきたくと思っています。

北海道支部ではこれまで2回年次大会を札幌市にて行っております。当初、札幌市以外での開催も考えましたが、支部委員や会員の多くが札幌圏に集中しており、地方での開催は難しいと判断しまして今回も札幌市での開催となりました。今回の会場は札幌市の中心部にある北海道道民活動センター“かでる 2・7 大ホール”です。秋の札幌市内には時計台、大通公園、札

主任者 コーナー

幌オリンピックで有名な大倉山ジャンプ台、羊ヶ丘展望台、北海道大学のポプラ並木や銀杏並木など、多くの観光スポットが会場の近くにあります。また、北海道の畜産・農作物・魚介類を使った様々な料理も楽しんでいただくことができます。札幌市へのアクセスは航路で新千歳空港に到着後、JRの電車を利用して30分ほどです。実行委員会は特別講演、シンポジウムなどを通して、興味深く、皆さんの役に立つ情報を提供できるように鋭意努力しておりますので、多くの方々のご参集をお願い申し上げます。

年次大会概要（参加費：5,000円）

○開催日：平成26年10月30日(木), 31日(金)

○会場：北海道立道民活動センター

「かでの2・7大ホール」

札幌市中央区北2条西7丁目

道民活動センタービル

(JR札幌駅：徒歩12分)

○テーマ：放射線安全教育と放射線利用のさらなる向上を目指して!!

プログラム概要（予定）

【10月30日(木)】(1日目)

9:00～ 参加受付

10:00～10:40 開会・部会総会

10:40～11:40 特別講演Ⅰ「放射線障害防止法の最新の動向」
(原子力規制庁放射線対策・保障措置課放射線規制室)

11:40～12:00 ポスター発表の紹介

12:00～13:00 休憩

相談コーナー

13:00～14:30 ポスター発表

14:30～16:15 シンポジウムⅠ（一般公開）

「ここまで来た獣医療での放射

線利用」

16:30～17:30 特別講演Ⅱ（一般公開）

「豊かな海の秘密」

18:00～20:00 交流会（於 ホテル札幌ガーデンパレス）

【10月31日(金)】(2日目)

9:00～ 参加受付

9:30～10:50 シンポジウムⅡ「学校教育における放射線教育」(仮題)

10:50～11:00 休憩

11:00～12:00 特別講演Ⅲ「これからの北海道の陽子線治療」(仮題)

12:00～13:00 休憩

13:00～15:00 シンポジウムⅢ「放射性廃棄物の現状と課題」(仮題)

15:00～15:20 大会のまとめ、次回大会紹介、閉会

特別講演

★特別講演Ⅰ「放射線障害防止法の最新の動向」
(原子力規制庁放射線対策・保障措置課放射線規制室)

★特別講演Ⅱ「豊かな海の秘密」(一般公開)
若土正暁氏（北海道大学）

★特別講演Ⅲ「これからの北海道の陽子線治療」
(仮題)

梅垣菊男氏（北海道大学工学研究院）

特別講演Ⅰは例年通り、原子力規制庁の担当官から最近の放射線安全行政に関連した話題を提供していただきます。特別講演Ⅱは「豊かな海の秘密」と題して、流水形成のメカニズムとそのオホーツク海の自然環境における重要性について、北海道大学の若土正暁先生を招き、一般市民の方にも教養を深めてもらえるような内容の講演をしていただきます。特別講演Ⅲは北海道で初めての粒子線治療施設である北海道大学病院陽子線治療センターの立ち上げに携わっ

た梅垣菊男先生に講師をお願いしました。

シンポジウム

本大会では次の3つのシンポジウムを企画しております。

★シンポジウムⅠ「ここまで来た獣医療での放射線利用」(一般公開)

- 1) 獣医療法改正と獣医での放射線利用
桑原幹典氏(北海道大学)
- 2) 核獣医学の最近の進歩
伊藤伸彦氏(北里大学)
- 3) ペットの放射線癌治療と獣医系大学での放射線教育
藤田道郎氏(日本獣医生命科学大学)
- 4) 北海道での小動物臨床での放射線利用の広がり
滝口満喜氏(北海道大学)

シンポジウムⅠは、医療・薬学等での放射線利用と異なり、協会会員の中でもあまり知られていない獣医療での放射性同位元素を用いた診断や放射線を用いた治療について、放射線に携わっておられる管理者の皆様にご知っていただくとともに、一般市民に開放してイヌ・ネコの獣医療での先進的な診断治療の発展を理解してもらえたいと考えております。平成21年に放射線・放射性同位元素の獣医療への利用に関して獣医療法施行規則の一部改正が行われ、それ以前では1 MeV未満のX線診断用X線発生装置のみしか利用できなかった状況が、医療と同じ1 MeV以上のがん治療用のリニアックの使用が認められました。また、アイソトープを用いた診断についても核種は限定されているもののPETやSPECTの利用も獣医療で使うことが可能となりました。大学を中心にリニアックの導入は年々進んでおり、また、数は少ないですが獣医核医学診断も取り入れた診療も開始されてきており、先進的獣医療が受けられ

るようになっております。これは1つの放射線利用の広がりと言って良いと思いますが、あまり、一般に普及していないため会員の皆様にも知られておりません。この年次大会で獣医療でのこれらの法令改正の経緯、広がり現状を紹介し、今後の安全教育の課題や問題点などについて問題点を共有できればと考えております。

★シンポジウムⅡ「学校教育における放射線教育」

- 1) 放射線教育資料の紹介と教育の経験から
宮越順二氏(京大生存圏研究所)
- 2) 放射線利用、物理的側面からの教育内容について
上菘義朋氏((独)理化学研究所仁科加速器研究センター)
- 3) 生物・医学的側面からの教育内容について
角山雄一氏(京都大学環境安全保健機構放射性同位元素総合センター)
- 4) 今後の放射線教育についての提言
中島 覚氏(広島大学自然科学研究支援開発センター)
- 5) 質問・総合討論(全員)

シンポジウムⅡは企画専門委員会が企画・計画しているものですが、学校教育における放射線教育についての話題です。東日本大震災での福島第一原子力発電所事故による影響が長期化する中で、今後、世代を超えて長期にわたって正しい放射線の知識を伝えていく重要な事業です。当初はマスコミをはじめ、様々なメディア、インターネットで放射線の知識の重要性が言われていましたが、事故から既に3年以上たち、その雰囲気は薄れてきたように感じております。放射線に関する知識の不足からの風評被害は依然として存在し、長期的な放射線の理解が求められております。特に学校教育での放射線の正しい理解を進めることは、次世代に続く

主任者 コーナー

放射線の正しい理解、ひいては復興において極めて重要な課題です。現在、中学・高等学校の教員を対象とした教員研修会が放射線安全取扱部会や関連団体が主催となって各地で開始されつつあります。これらの実施経過と経験を紹介していただくとともに、今後の私たちが関わる学校教育での放射線教育の問題点やあるべき方向について議論できればと思っております。

★シンポジウムⅢ「放射性廃棄物の現状と課題」

- 1) 基調講演「我が国の放射性廃棄物処分の全体像（仮題）」

柳原 敏氏（福井大学附属国際原子力工学研究所）

- 2) 研究所等廃棄物の現状と処分への課題

坂本義昭氏（（独）日本原子力研究開発機構）

- 3) 高レベル放射性廃棄物の処分計画と課題

鈴木 覚氏（原子力発電環境整備機構（NUMO））

- 4) 福島第一原子力発電所内の事故廃棄物の現状と課題

石川真澄氏（東京電力（株）原子燃料サイクル部（廃棄物総括））

- 5) パネルディスカッション

シンポジウムⅢは放射性廃棄物処理に関わる話題を取り上げます。アイソトープを用いた研究・医療活動等によって発生した放射性廃棄物は集荷・貯蔵されてきていますが、現在までのところ処分には至っていません。これは、原子力発電に伴って発生する高レベル放射性廃棄物や福島第一原子力発電所の事故で生じた廃棄物の処分と同様に大きな課題となっています。本シンポジウムでは、放射性廃棄物処分の全体像並びにそれぞれの現場における現状と課題を講師の先生方に話していただきます。一般放射性廃棄物から福島県の環境修復によって生じた廃棄物まで、課題を整理し、今、国民に対する理

解や人材育成などの面で私たちがなすべきことは何か？ 放射線安全取扱部会として何ができるか？ などの問題を掘り下げていくシンポジウムにしたいと考えております。

ポスター発表

日頃、放射線管理等の実務を担当されている方々の情報交換の場として、今回もポスター発表を実施します。放射線施設での施設維持管理の新しいアイデア、放射線教育、放射線利用、事業所紹介、福島支援活動や支部活動など、お申込みいただいた内容（表題、発表（責任）者）は「ポスター発表一覧」として10月号に掲載する予定です。

前回、鹿児島の大会で非常に好評でありましたので、前回同様に、ポスターの概要を実行委員があらかじめ紹介する時間を1日目午前の最後に設けました。全体をオーバービューし、あらかじめどのようなポスターがあるのかの情報を得てから、午後の発表を見ることができるようになります。また、例年通り、偶数と奇数番号で説明の時間帯を分けて行いますので、ポスターの講演者自身もほかのポスター発表を見ることが出来ます。

交流会（参加費：5,000円）

10月30日（木）の夕方にホテル札幌ガーデンパレスで交流会を開催します。交流会会場は年次大会会場から徒歩5分程度で、すぐそばです。秋の北海道らしいおいしい料理を用意いたしますので、しばし札幌の夜をお楽しみください。

【連絡先】

○放射線安全取扱部会事務局

日本アイソトープ協会学術・出版課

☎113-8941 東京都文京区本駒込 2-28-45

☎03-5395-8081 FAX03-5395-8053

E-mail gakujuitsu@jrias.or.jp

【札幌市へのアクセスと宿泊に関して】

札幌市へのアクセスは新千歳空港から JR の電車の利用が便利です。年次大会会場へのアクセスが便利な市営地下鉄さっぽろ駅や大通駅周辺にはホテルが多数あります。

また、開催予定の 10 月末の北海道は日本で最初の紅葉が訪れ、次第に山から里へ木々の色づきが広がっていきます。中心部の街路樹や北海道大学、中島公園、知事公館、北海道庁などの紅葉も鮮やかですので、是非ともこの季節の札幌市の自然も楽しんでいただきたいと思います。

ます。

また、秋の札幌市といえばおいしい食材が abound してきます。刺身やかになどの魚介類、ジンギスカンなど機会を見つけてご賞味いただきたいと思います。会場の近くには東京以北最大の繁華街、すすきのがあります。是非とも足を伸ばし、おいしい魚介類や有名な札幌ラーメンも味わっていただきたいと思います。

実行委員一同、皆様の参加をお待ちしております。大会の詳細や有用な情報については下記のホームページを開設いたしました。随時、チェックしていただければと思います。

<http://vetradserver.vetmed.hokudai.ac.jp/jrias2014/index.html>

【訂正】3月号掲載“第1種放射線取扱主任者試験問題と解答例”の“物化生”の“注”

本誌3月号，“第58回 第1種放射線取扱主任者試験問題と解答例(2)”の“物化生 問3”(118頁)の“解答 注D”の一部に誤りがありました。お詫びして次のように訂正いたします。

